

栃木県わがまち未来創造事業実績書(市町総括表)

【単独・連携事業】

※2～6は「地域みんなの夢」事業

市町名	宇都宮市
-----	------

(単位:円)

No.	単位事業名		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計
1	宇都宮ウオーキング フェスタ	総事業費		2,223,990	2,694,000	2,694,000	2,694,000	10,305,990
		うち市町支出額		1,200,000	1,700,000	1,200,000	1,200,000	5,300,000
		うち県交付金		600,000	850,000	600,000	0	2,050,000
2	「梵天の里 上河内」魅 力発信事業	総事業費		632,202	222,000	222,000	222,000	1,298,202
		うち市町支出額		500,000	0	0	0	500,000
		うち県交付金		250,000	0	0	0	250,000
3	河内の宝物と人の交流 事業	総事業費		628,908	800,000	800,000	800,000	3,028,908
		うち市町支出額		500,000	0	0	0	500,000
		うち県交付金		250,000	0	0	0	250,000
4	鬼怒川グルメフェスティ バル・新米まつり	総事業費		768,715	850,000	850,000	850,000	3,318,715
		うち市町支出額		500,000	500,000	500,000	500,000	2,000,000
		うち県交付金		250,000	0	0	0	250,000
5	城山ウェルカムフラワー 「花いっぱい運動」推進 事業	総事業費		626,045	100,000	100,000	100,000	926,045
		うち市町支出額		500,000	0	0	0	500,000
		うち県交付金		250,000	0	0	0	250,000
6	「豊郷まほろばの道」 魅力発信事業	総事業費		529,315	250,000	250,000	250,000	1,279,315
		うち市町支出額		400,000	200,000	200,000	200,000	1,000,000
		うち県交付金		200,000	0	0	0	200,000
7	もったいない運動市民 事業	総事業費		5,525,018	6,525,000	5,375,000	5,375,000	22,800,018
		うち市町支出額		4,325,000	5,408,000	4,325,000	4,325,000	18,383,000
		うち県交付金		1,000,000	2,000,000	0	0	3,000,000
8	フェスタin大谷実行委員 会交付金事業	総事業費		3,747,798	4,000,000	4,000,000	4,000,000	15,747,798
		うち市町支出額		3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	12,000,000
		うち県交付金		1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	3,000,000
9		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
10		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
市町計		総事業費	0	14,681,991	15,441,000	14,291,000	14,291,000	58,704,991
		うち市町支出額	0	10,925,000	10,808,000	9,225,000	9,225,000	40,183,000
		うち県交付金	0	3,800,000	3,850,000	1,600,000	0	9,250,000

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	宇都宮市
事業名	宇都宮ウォーキングフェスタ
事業主体の名称	宇都宮市民憲章推進協議会
代表者の名称	鎌倉 三郎
事業主体の所在	宇都宮市旭1丁目1番5号
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的 : 宇都宮市民憲章を啓発推進し、「心のかよいあう人間性豊かなまち宇都宮」の建設に寄与する。 ・設立年月日 : 昭和56年2月25日 ・構成員等 : 市内185の市民団体 ・普及啓発事業: 「フェスタmy宇都宮」「宇都宮ウォーキングフェスタ」
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>本事業は、宇都宮市民憲章に謳われている「健康で、心のふれあう明るいまちづくり」の具現化を目指すための実践活動として、参加者がウォーキングを通じて本市の豊かな自然と文化にふれあい人との交流を深めるとともに、市民が生涯を通して気軽に楽しめる健康づくりに取り組むことを目的として平成6年に行われた。</p> <p>今年で開催23回目となり、継続して開催してきたことで秋のイベントとして市民に定着してきており、ウォーキングを通じた健康づくりが市民に浸透しつつあるが、近年の参加者数は横ばいとなっており、今後、参加者数を増やすための取組や会場やコース上における参加者の安全の確保が課題となっている。</p>
事業目的	市民憲章で掲げている「健康で、心のふれあう明るいまち」の具現化に向け、恵まれた自然と豊かな文化にふれあい人ひととの交流を深めること、歩くことの楽しさと心と体のバランスのとれた健康づくりをすすめること、いつでもどこでも気軽に楽しめる生涯スポーツを推進することを目的に「宇都宮ウォーキングフェスタ」を開催する。
事業概要	<p>当該年度 【開催日時、場所】平成29年10月29日(日) 宇都宮市中心市街地(会場:宇都宮城址公園) 内容 : 中心市街地を回遊する3コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加予定2,000人 ・記念グッズやドリンクサービスの提供、健康相談会の開催、とちぎ食と農ふれあいフェアや菊水祭と同時開催 ・参加者が安心して参加できるよう安全面を考慮したコースを設定 ・市内外へ周知できるよう広報の強化、配置スタッフの増員や警備の強化に努める ・配置スタッフ増員には、若者のボランティア意識向上も兼ね、大学生・中学生などのボランティア募集なども実施 <p>翌年度以降 新たな本市の魅力を発信できるコース設定による開催</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<ul style="list-style-type: none"> ・基本目標: 1 市民の結婚・出産・子育ての希望を実現する ・基本施策・具体的な事業: 高齢者になっても健康で自立した生活が送れる社会の実現。地域の健康づくり実践活動の推進。 ・KPI: 健康寿命 H22 男性78.47才 女性83.16才(平均寿命 男性79.9才 女性86.2才) → H29 平均寿命の延伸分を上回る健康寿命の増加 実績: H25 男性78.58才 女性83.17才(平均寿命 男性79.88才 女性86.64才)

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

事業内容	29年度	30年度	31年度	支援期間の事業費計	支援期間の翌年度
事業内容	宇都宮ウォーキングフェスタ2017	宇都宮ウォーキングフェスタ2018	宇都宮ウォーキングフェスタ2019		宇都宮ウォーキングフェスタ2020
事業費	2,223,990	2,694,000	2,694,000	7,611,990	2,694,000
市町支出金(ソフト事業分)	1,200,000	1,700,000	1,200,000	4,100,000	1,200,000
うち県交付金	600,000	850,000	600,000	2,050,000	
市町支出金(ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	1,023,990	994,000	1,494,000	3,511,990	1,494,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	みんなでまちづくり課
担当者名	曾澤 佑美
電話	028-632-2886
FAX	028-632-3268
E-mail	u2207@city.utsunomiya.tochigi.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	宇都宮市
事業名	「梵天の里 上河内」魅力発信事業
事業主体の名称	上河内地区まちづくり協議会
代表者の名称	小嶋 理男
事業主体の所在	宇都宮市中里町181-3(上河内地区市民センター内)
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的:上河内地区の生活環境や住民福祉の向上, 地区の活性化, 安全・安心なまちづくりに向けて地区住民が相互に協力し, 自主的なまちづくりを推進する。 ・設立年月日:平成22年2月24日 ・構成員等:上河内地区内で活動する個人及び団体, 企業等で協議会の趣旨に賛同し, 積極的にまちづくり活動を行う者
当該事業に係る地域の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・上河内地区は65歳以上の割合が人口の4分の1を超える宇都宮市の中でも高齢化が進んでいる地区である。また, 豊かな地域資源(羽黒山, 温泉やゆずなど)があるが, その魅力を充分には発信しきれていない。そのため地域の魅力を認知してもらい, 若い世代の定住化や交流人口を増やし, 地域の活性化を図りたい。
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地区のシンボルの羽黒山や温泉など地域資源として地域住民にも認識してもらうことで, 地域全体で魅力を地区内外に発信していく。 ・地区内外の人も参加するイベントで地域資源をPRすることで, 若い世代の定住化や交流人口の拡大を図る。 ・上河内のゆずは江戸時代「伊勢参り」の土産として羽黒山神社の氏子が持ち帰り, 植栽したものと伝えられており, 今では多くの家庭の庭樹として植えられ, また地区内にはゆず園もあるなど地域には古くから親しみのある特産物であり, これらを活かして地域の活性化を図りたい。
事業概要	<p>【上河内の魅力発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回(文化交流祭) 開催日:11月4日(土)・5日(日) 演芸発表, 幼稚園・保育園・小学校・中学校の生徒等の作品展示, 生涯学習センター利用団体や地域の方の作品展示, また初めて企画展として創作人形展, 上河内地区の名所旧跡の写真展を実施しました。地域の方から昔遊び等を伝承してもらい, 三世代が交流するレクリエーションを実施した。また, 駐車場において地元の特産物ゆずや地元野菜を使ったぼんてん汁の模擬店を実施し, 地元農産物をPRしました。 ・第2回(梵天祭り) 開催日:11月23日(祝) 今年度の梵天祭りは50,000人の来場者がありました。会場内のおもてなし広場に休憩所を設置し, 特産物のゆずや地元野菜を使ったぼんてん汁を1,000食来場者にふるまい, 地区の魅力を来場者にPRしました。また, 参道途中には, おもてなし茶屋を設け, 参道を上がってきた梵天の担ぎ手や来場者に麦茶をふるまいました。 ・第3回(絶景!!羽黒山ウォーキング) 開催日:12月10日(日) 第1回の大会は地区内住民を対象として実施しましたが, 第2回の今年は誰でも参加できる大会としたため, 地区内外から約500名の参加者が集まりました。5km・8km・10kmの3コースを設定しましたが, どのコースからも地区のシンボルである羽黒山を眺めながらウォーキングを楽しんでもらうことができました。ゴール後には特産物のゆずや地元野菜を使ったぼんてん汁をふるまいました。 <p>【平成30年度以降】 ゆずなどの地域特産物を活用し, 新たなメニューの提供や豊かな自然や誇れる伝統など地域の宝を活かして, 今後地区内外に上河内の魅力を発信していきます。</p> <p>【周知方法】 まちづくり協議会では地区内に地域情報紙を年4回発行しています。またホームページも立ち上げたので, より早く, また幅広く情報発信することができるようになりました。これらの媒体を利用して, 今後も情報発信に力を入れていきます。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標】人口の定着と東京圏からの流入人口の増加を図る</p> <p>【KPI】本市の魅力を広く市外, 県外に発信することで, 来訪者の増加を図るとともに, 本市での定住を促進します。 本市年間観光入込客数 現状値1,353万人(H22実績)⇒目標値1,500万人(H29) ※1470万500人(H27実績), 1483万100人(H28実績)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	29年度	年度	年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・文化交流祭において模擬店出店 ・梵天まつりにおいて梵天の湯・おもてなし広場・おもてなし茶屋でのおもてなし ・羽黒山ウォーキングでのおもてなし 				<ul style="list-style-type: none"> ・文化交流祭において模擬店出店 ・梵天まつりにおいて梵天の湯・おもてなし広場・おもてなし茶屋でのおもてなし ・羽黒山ウォーキングでのおもてなし
事業費	632,202			632,202	222,000
市町支出金(ソフト事業分)	500,000			500,000	0
うち県交付金	250,000			250,000	
市町支出金(ハード事業分)				0	0
うち県交付金				0	
その他自主財源等	132,202	0	0	132,202	222,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	宇都宮市上河内地区市民センター まちづくり支援グループ
担当者名	佐野 直子
電話	028(674)3131
FAX	028(674)3139
E-mail	u2226@city.utsunomiya.tochigi.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	宇都宮市
事業名	河内の宝物と人の交流事業
事業主体の名称	河内地区まちづくり協議会
代表者の名称	会長 白坂 喜美雄
事業主体の所在	宇都宮市中岡本町3221-4(河内地区市民センター内)
事業主体の概要	<p>・団体の目的:河内地区内の団体及び個人の相互の連絡調整及び協力を図ることにより、地域の活性化と、住民福祉の向上に寄与し、地域住民によるまちづくりを推進する。</p> <p>・設立年月日:平成21年1月22日</p> <p>・構成員等:河内地区内で活動する各種団体</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>・河内地区は、日本一の大きさを誇る東下ヶ橋の天棚や、逆面の獅子舞など多くの有形無形の文化財がある。また、バスや鉄道などの交通関係の工場が立地し、従来からの農業を含め、産業面も充実している。しかし、それらの資源を活かした取り組みが不足している点があることから、新たな事業により、更なる地区内の賑わい創出につなげる必要がある。</p>
事業目的	<p>宇都宮の北の玄関口であるJR岡本駅の橋上駅舎新築と西口の整備に伴ない河内地区市民センターへの利便性が向上したことから、河内地区市民センターを中心とし、既存の文化祭も統合した新たなまつりとして、河内地区が有する逆面獅子舞や天棚など歴史と伝統に育まれた様々な地域資源など河内の魅力を内外へ発信し、賑わいを創出するもの。</p>
事業概要	<p>【平成29年度】 河内地区は宇都宮市に合併してから10年が経ち、河内町時代を知らない子どもたちも育ってきているとともに、地区内の工場に勤務する方々が更に多く居住するようになり、河内に住みながら河内の素晴らしさを知らない住民も増えてきている。このような状況の中で、河内地区の地域資源についての関心も多くなってきている。 また、合併後、地区内住民の努力により、岡本駅の橋上化と東西の連絡通路が完成し、東西の交流も盛んになってきた。 更に、河内地区まちづくり協議会では、昨年度合併10周年記念の各種イベントを催し、11年目の平成29年度を新たな河内創生の1年目と考えており、河内地区で策定した地域ビジョンに基づき、河内地区の住民が幸せを感じられるように、宇都宮市の三木まつりと書われるようなイベントを興じていきたいと考えている。 以上のようなことから、平成29年度から「河内の宝物と人の交流事業」を実施。初年度は駅周辺から河内地区市民センター間で下記の事業を実施していく。 開催日:平成29年11月12日(日) 周知方法:まち造ホームページ、栃木放送 ・獅子舞演奏 ・屋台などのお囃子演奏 ・河内地区内工場見学会</p> <p>【平成30年度以降】 ウォークラリーや地域内交通を活用して地域内のほかの文化財及び工場などの見学会を実施。 また、今年度のイベントで河内地区に興味を持ってくれた方々を担い手やスタッフとして活用して、更に盛大なイベントとしていく。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標】人口の定着と東京圏からの流入人口の増加を図る</p> <p>【KPI】地域産業を支える地産人材の育成や、本市の特長を生かした供給力の充実など、幅広い分野での「人づくり」を進める 自治会加入世帯数 147,810世帯(H27.4現在)⇒148,810世帯(H31) ※147,873世帯(H28.4現在)</p> <p>【目標】人口規模・構造の変化に適合したまち、ネットワーク型コンパクトシティを実現する</p> <p>【KPI】本市の特性を生かした産業・観光を維持・発展させる都市を実現する 宇都宮に定着がある人の割合 63.7%(H23)⇒75.0%(H29) ※66.5%(H28)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	29年度	年度	年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 獅子舞演奏 屋台などによるお囃子演奏 河内地区内工場見学会 警備及び立て看板作成 				<ul style="list-style-type: none"> 文化財披露 工場見学会 ウォークラリーなど
事業費	628,908			628,908	800,000
市町支出金 (ソフト事業分)	500,000			500,000	0
うち県交付金	250,000			250,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	128,908	0	0	128,908	800,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	宇都宮市河内地区市民センターまちづくり支援グループ
担当者名	芝野 修司
電話	028(671)3202
FAX	028(671)3220
E-mail	u2227@city.utsunomiya.tochigi.jp

栃木県がまち未来創造事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	宇都宮市
事業名	鬼怒川グルメフェスティバル・新米まつり
事業主体の名称	清原地域振興協議会
代表者の名称	会長 直井 重信
事業主体の所在	宇都宮市清原工業団地15-4(清原地区市民センター内)
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的:宇都宮東部地域における鬼怒川沿川地区の振興を図るため、各地域で収穫された「新米」や地域農産物等の魅力を地域内外にPRするとともに、生産者の意識向上を高める。 ・設立年月日:平成29年3月 ・構成員等:清原地区内で活動する各種団体、鬼怒川東部沿川地域農業従事者
当該事業に係る地域の現状と課題	宇都宮東部地域は、鬼怒川の沿川に接しており、豊かな水を湛え、肥沃な農地に恵まれた地域であり、稲作や野菜、果物などの生産が盛んな地域である。しかし、豊かな自然に恵まれ、生産者が丹精込めて育った農産物の「旨さ」や「新鮮さ」などをアピールする機会が少ないことや情報の発信が乏しいことから、認知度が低い状況である。農産物の魅力を十分に伝えるため、農産物や伝統芸能などを通じた交流の場をつくり、多くの地域内外の方々との交流を広げる事が課題である。また、耕作放棄地面積が増加傾向にあることから、安定的な農産物の供給を図り、安定した農業運営を展開することで耕作放棄の増加を食い止め、減少させることが課題である。
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内外に農産物の魅力を発進 ・交流の場をつくることで交流人口の増加を図る。 ・農産物を通じた地域の賑わいづくり ・生産者の意識向上
事業概要	<p>【イベント】</p> <p>事業名:鬼怒川グルメフェスティバル・新米まつり 日時:平成29年10月1日(日)10:00~15:00 場所:道場宿緑地 主催:鬼怒川グルメフェスティバル・新米まつり実行委員会6地区(上河内、河内、平石、石井、清原、瑞穂野)の生産者が代表者で構成した委員会 周知方法:新聞折込によるチラシ配布、関係施設でのポスター掲示、宇都宮市「広報うつのみや」への掲載など、あらゆる機会を通じて周知する。 イベント会場では、新米の試食や地域活動PRブースを設置し、各地域の魅力を発信する。</p> <p>内容:</p> <p>○ブース:鬼怒川沿川6地区で収穫された新米等を各地区のブースで試食販売(予約販売を含む) 各地区の新米「鬼怒の清流米」、「鬼怒の舞」、農産物(野菜、果樹)きゅうり、生しいたけ、梨、りんごなどの販売 地域特産品 鮎、ゆずなど地域の特産品や加工品 新米に合う各地域の特産加工品(漬物)の販売</p> <p>○アトラクション:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区に伝わる伝統芸能(お囃子など)の披露 ・各地区の消防分団による消防車の展示 ・ダンス、演歌等によるステージ <p>【平成30年度以降】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の効果を検証し、集客につながる地域の魅力をPRするための方法を検討を行っていく。 ・地域の参加を積極的に推進し、ブースの増設などイベントの規模の拡大を図ることで新たな来場者を確保する。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標】人口規模・構造の変化に適合したまち、ネットワーク型コンパクトシティを実現する</p> <p>【KPI】本市の特性を生かした産業・観光を維持・発展させる都市を実現する 耕作放棄地面積の減少 53.2ha(H24. 3)⇒40.0ha(H29) ※H27:56.4ha</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	29年度	年度	年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	鬼怒川グルメフェスティバル・新米まつりの開催				
事業費	768,715			768,715	850,000
市町支出金 (ソフト事業分)	500,000			500,000	500,000
うち県交付金	250,000			250,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	268,715	0	0	268,715	350,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	宇都宮市清原地区市民センター まちづくり支援グループ
担当者名	野上 勇
電話	028(667)5696
FAX	028(667)9062
E-mail	u2216@city.utsunomiya.tochigi.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	宇都宮市
事業名	城山ウェルカムフラワー「花いっぱい運動」推進事業
事業主体の名称	城山地区コミュニティ協議会
代表者の名称	会長 池田 文 男
事業主体の所在	宇都宮市大谷町1059番地5(城山地区市民センター内)
事業主体の概要	<p>・団体の目的:城山地区内の各種機関及び団体間の連絡調整を図り、地域の活性化と住民福祉の向上に寄与し、地区住民によるまちづくりを推進する。</p> <p>・設立年月日:平成16年5月15日</p> <p>・構成員等:城山地区内で活動する機関、団体、公的機関等</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>・地域内に多くの地域資源(農林水産物・鉱工業品・観光資源等)があるにもかかわらず、その魅力を活かしてきていない。宇都宮の観光拠点・産業拠点でもあるこの地域において、地域資源を活用しながら、地域住民が主体となって、城山地域ビジョンに定めた地域景観の形成に向けた活動を行うことによって、永続的に地域で活躍する人材の育成・確保につなげていくことが求められている。</p>
事業目的	<p>・本事業の中心となるコスモスの花による「花いっぱい運動」の実現に向けて、地域が一体となって取り組むことにより、地域の魅力を再認識する機会や、地域住民がともに活動する機会を創出すること、さらには城山地域ビジョンに掲げる長期的なまちづくりに向けた基礎を築き、地域に対する誇りと愛着を持った「ひとづくり」の推進、「おもてなしの心」が通う「地域づくり」を実現する。</p>
事業概要	<p>【平成29年度】</p> <p>①コスモス植栽設置...地域内で開催される世界的なイベントである「ジャパンカップサイクルロードレース」のイメージフラワーであるコスモスを地域一体となって育て、観戦ポイント・街道沿い等に「ウェルカムフラワー」として設置し、大会に花を添える。また、同時期に開催される「フェスタin大谷」などの地域内イベントにおいても設置し、「花いっぱい運動」を推進する。</p> <p>②コスモスの栽培...地域内の各種団体・小中学校の連携により、7月から10月にかけて、コスモスを栽培する。土は、地元産の「赤玉土」を利用した培養土を活用するなど、地域資源の活用を図る。</p> <p>③大谷石を利用したプランターカバーの製作...宇都宮独自の景観形成に寄与するため、地域の特産物である大谷石のプレートを活用したプランターカバーを製作し、花とともに設置する。</p> <p>④コスモス・シーズ・バンクの創設...この事業で栽培したコスモスから種を採取し、翌年の活動につなげる。</p> <p>【平成30年度～】</p> <p>上記①・②事業については、城山地区コミュニティ協議会及びビジョン推進部会を中心に事業を継続する。</p> <p>③については、必要に応じて追加で製作する。</p> <p>④については、3年後を目途に、種の地域内全世帯への配付により、「一家に一鉢、花を飾ろう運動」の実現を目指す。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標】人口の定着と東京圏からの流入人口の増加を図る</p> <p>【KPI】地域産業を支える地域人材の育成や、本市の持つ労働供給力の充実など、幅広い分野での「人づくりを進める 自治会加入世帯数 現状値:147,810世帯(H27.4現在) → 目標値:148,810世帯(H31) ※147,873世帯(H28.4現在)</p> <p>【KPI】本市の魅力を広く市外、県外に発信することで、来訪者の増加を図るとともに、本市での定住を促進する 本市年間観光入込客数 現状値:1,353万人(H22実績) → 目標値:1,500万人(H29) ※1,483万100人(H28実績)</p> <p>【KPI】本市の特色を生かした産業・観光を維持・発展させる都市を実現する 本市年間観光入込客数 現状値:1,353万人(H22実績) → 目標値:1,500万人(H29) ※1,483万100人(H28実績)</p> <p>宇都宮に愛着がある人の割合 現状値:63.7%(H23) → 目標値:75.0%(H29) ※66.5%(H28)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	29年度	年度	年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①コスモス植栽の設置 (各イベント) ②コスモス栽培 ③大谷石プランターカ バー製作 ④種の採取(コスモス・ シーズ・バンク創設)				①コスモス植栽の設置 (各イベント) ②コスモス栽培 ③大谷石プランターカ バー製作(不足が生じ た場合のみ) ④種の採取・学校への 配付
事業費	626,045			626,045	100,000
市町支出金 (ソフト事業分)	500,000			500,000	0
うち県交付金	250,000			250,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	126,045	0	0	126,045	100,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	宇都宮市城山地区市民センター まちづくり支援グループ
担当者名	吉野 清史
電話	028(652)4794
FAX	028(652)5570
E-mail	u2219@city.utsunomiya.tochigi.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	宇都宮市
事業名	「豊郷まほろばの道」魅力発信事業
事業主体の名称	豊郷地区豊かな郷づくり推進協議会
代表者の名称	会長 坂本 登
事業主体の所在	宇都宮市岩曾町825番地1(豊郷地区市民センター内)
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的:郷土故郷を地域ぐるみで育み、地域の活性化を具体的に進めていくための総合的なまちづくり組織 ・設立年月日:平成10年 ・構成員等:連合自治会, 単位自治会(41), 社協, 民児協, 体協, 婦人会, 青少年育成会, 子ども会, 老人クラブ, スポーツクラブ, 小中学校, 地区市民センター等
当該事業に係る地域の現状と課題	事業主体が管理する「豊郷まほろばの道」は、平成8年、豊かな自然と調和した歴史文化遺産を結び合わせた散策路として整備され、平成27年には、「新日本歩く道紀行100選(ふるさとの道)」に認定された。当事業の実施により、当時設置したモニュメント(木製トーマスポール)をリニューアルするほか、道案内標識(矢印板)を設置するなど、より一層、観光資源として磨き上げながら、効果的なPRによりその魅力を十分に発信していく必要がある。
事業目的	同道の環境を再整備し、来訪者へのおもてなしの充実や地域住民の郷土愛の向上を図るとともに、豊かな自然と歴史文化遺産とが調和した魅力あふれる観光資源を地区内外に発信することで、さらなる交流人口の増加やコミュニティ活動の活性化、また、その担い手の育成などを、より一層促進し、持続的な地域活性化に繋げていく。
事業概要	<p>【平成29年度】</p> <p>下記に掲げる4事業について、事業主体のほか、地元の小学生や地域まちづくり団体、ボランティアなどが協力して実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 平成10年頃に同道のシンボルとして設置したモニュメント(木製トーマスポール)をリニューアル。 → 道の名を彫刻した銅板を作成(地元の小学生が作成に参加)し、丸太に打ち付け、古墳付近など散策のポイントとなる12箇所に設置した。10月1日に設置セレモニーを開催、新聞報道により広く市民に周知された。 ② 同道の散策順路を示す道案内標識(矢印板)を設置。 → 道の分岐点などポイントとなる23箇所に設置した。 ③ 同道を、10月実施の地区の歩け歩け大会のコースとして活用し、効果的に発信。 <p>【平成30年度以降】</p> <p>パンフレットの作成や地区の広報紙やホームページによる広報活動を充実させ、引き続き、同道を地区の歩け歩け大会のコースとして活用するなど、交流人口の増加に繋がるような事業を実施する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標】人口の定着と東京圏からの流入人口の増加を図る。</p> <p>【KPI】本市の魅力を広く市外、県外に発信することで、来訪者の増加を図るとともに、本市での定住を促進する。 本市年間観光入込客数 現状値1,353万人(H22実績)⇒目標値1,500万人(H29) ※1470万500人(H27実績), 1483万100人(H28実績)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	29年度			支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・道の名を彫刻した銅板を作成(地元の小学生が作成に参加)し、丸太に打ち付け、古墳付近など散策のポイントとなる12箇所に設置 ・道の分岐点などポイントとなる23箇所に道案内板を設置 ・同道を10月実施の地区の歩け歩け大会のコースとして活用し、効果的に発信 				<ul style="list-style-type: none"> ・地区の広報紙やホームページによる広報活動を充実させ、引き続き、同道を地区の歩け歩け大会のコースとして活用するなど、交流人口の増加に繋がるような事業を実施
事業費	529,315			529,315	250,000
市町支出金 (ソフト事業分)	400,000			400,000	200,000
うち県交付金	200,000			200,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	129,315			129,315	50,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	宇都宮市豊郷地区市民センター
担当者名	金枝 宣行
電話	028(660)2340
FAX	028(660)2270
E-mail	u2222@city.utsunomiya.tochigi.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単体事業調書)
【単体事業】

市町名	宇都宮市
事業名	もったいない運動市民事業
事業主体の名称	宇都宮市もったいない運動市民会議
代表者の名称	宇都宮市もったいない運動市民会議 会長 上野 勝弘
事業主体の所在	宇都宮市旭1-1-5 宇都宮市環境部環境政策課内
事業主体の概要	<p>・団体の目的:地球温暖化対策及び3Rの推進並びにおもてなしの心の醸成を図るため、「あらゆる地球資源に対する尊敬・感謝(リスペクト)」を込めた「ひとやものを大切に」するところを基本とした様々な活動・取組を推進する宇都宮市の「もったいない運動」を広く普及させることを目的とする。</p> <p>・設立年月日:平成21年3月27日</p> <p>・構成員等:宇都宮市おもてなし委員会、特定非営利活動法人うつのみや環境行動フォーラムほか28団体の代表者 計30名</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>・本市は、人と自然が共生し、環境への負荷が少ない「持続可能な環境都市 うつのみや」を実現するため、平成13年10月に「宇都宮市環境基本条例」を施行し、平成15年2月に「第1次宇都宮市環境基本計画」を策定し、様々な環境施策に取り組み、市民の意識向上を図ってきた。</p> <p>・平成17年にワンガリ・マータイ氏が来日し「もったいない」が世界的に注目される中、本市はその趣旨に賛同し全国に先駆けて平成19年に「もったいない全国大会」を開催し、ものを大切にする「もったいない」のこころと、ひとを思いやる「おもてなし」のこころが行動に結びつくよう、市民主体により「ひと・もの・まち」を大切にする本市独自の「もったいない運動」を展開してきた。</p> <p>・これらの運動は、市民の日常生活との関わりが強く、市民が自ら取り組むことが重要であることから、引き続き運動実践者の拡大を図るため、あらゆる機会を通じて本市独自の「もったいない」を周知していくとともに、平成30年度に市民会議が10周年の節目を迎えるにあたり、さらなる実践に結び付ける取り組みが必要である。</p>
事業目的	地球温暖化対策及び3Rの推進並びにおもてなしの心の醸成を図るため、「あらゆる地球資源に対する尊敬・感謝(リスペクト)」を込めた「ひとやものを大切に」するところを基本とした様々な活動・取組を推進する宇都宮市の「もったいない運動」を広く普及させる。
事業概要	<p>【平成29年度】</p> <p>①「もったいない残しま10！」運動の実施</p> <p>②「もったいないフェア2017」の開催</p> <p>③「もったいないりぶつく」活動の実施</p> <p>④「もったいない4コマまんがコンクール」の実施</p> <p>⑤団体と連携した「節電キャンペーン」の実施</p> <p>⑥「もったいないAWARD」の実施</p> <p>⑦HP・FB・メルマガを活用した情報発信、企業や団体と連携した「もったいない運動」のPR</p> <p>⑧他イベントと連携した「もったいない運動」の普及啓発活動の実施</p> <p>⑨「もったいない運動ひろめ隊」活動の実施</p> <p>【平成30年度～】</p> <p>①～⑨まで同じ</p> <p>⑩幼稚園・保育園などを対象とした「もったいない体操」普及事業の実施</p> <p>⑪家庭を対象とした「もったいない残しま10！」運動の拡充</p> <p>⑫まちづくり協議会や自治会など地域団体と連携した「もったいない運動市民会議設立10周年事業」の普及啓発活動の実施</p> <p>⑬キャッチコピーの作成や効果的な広報媒体の活用など「もったいない運動」普及啓発キャンペーンの実施</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標】人口規模・構造の変化に適合したまち、ネットワーク型コンパクトシティを実現する。</p> <p>●本市の特性を生かした産業・観光を維持・発展させる都市を実現する。</p> <p>(一特色ある地域空間を生み出す観光拠点の形成→おもてなしある受入体制の充実)</p> <p>⇒本市年間観光入込客数 H22(実績) 1,353万人 → H29 1,500万人 ※1,483万100人(H28)</p> <p>⇒宇都宮に愛着がある人の割合 H23 63.7% → H29 75.0% ※66.5%(H28)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

事業内容	29年度			30年度			31年度			支援期間の事業費計		支援期間の翌年度	
	29年度	30年度	31年度	29年度	30年度	31年度	29年度	30年度	31年度	29年度	30年度		
事業内容	①もったいない残しま10！運動 ②もったいないフェア ③もったいないりぶつく活動 ④もったいない4コマまんがコンクール ⑤節電キャンペーン ⑥もったいないAWARD ⑦SNSを活用した情報発信 ⑧他イベントブース出展 ⑨もったいないひろめ隊	①～⑨まで左記に同じ ⑩もったいない体操 ⑪家庭における残しま10！運動 ⑫地域団体と連携した普及啓発活動 ⑬もったいない運動普及キャンペーン		①もったいない残しま10！運動 ②もったいないフェア ③もったいないりぶつく活動 ④もったいない4コマまんがコンクール ⑤節電キャンペーン ⑥もったいないAWARD ⑦SNSを活用した情報発信 ⑧他イベントブース出展 ⑨もったいないひろめ隊 ⑩もったいない体操									
事業費	5,525,018	6,525,000					12,050,018				5,375,000		
市町支出金(ソフト事業分)	4,325,000	5,408,000					9,733,000				4,325,000		
うち県交付金	1,000,000	2,000,000					3,000,000						
市町支出金(ハード事業分)							0						
うち県交付金							0						
その他自主財源等	1,200,018	1,117,000					2,317,018				1,050,000		

市町担当情報

担当課(ケガレ係)名	環境政策課エコ活動グループ
担当者	藍原 貴宏
電話	028-632-2404
FAX	028-632-3316
E-mail	u0715@city.utsunomiya.tochigi.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	宇都宮市
事業名	フェスタin大谷実行委員会交付金事業
事業主体の名称	フェスタin大谷実行委員会
代表者の名称	フェスタin大谷実行委員会 委員長 石下 光良
事業主体の所在	〒321-0345 宇都宮市大谷町1075番地 大谷石材協同組合内
事業主体の概要	<p>・団体の目的:フェスタin大谷を推進し、「石の里・大谷」を中心とする城山地区の振興に寄与することを目的とする。</p> <p>・設立年月日:平成16年7月8日</p> <p>・構成員等:大谷石材協同組合、城山地区連合自治会、大谷自治会の代表者、地元事業者等24名</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>大谷石の産地であり、本市の唯一の観光地でもある大谷地区において、平成元年の陥没事故以降、東日本大震災発生等により、平成24年度までは大谷への観光客は減少傾向にあったが、平成23年度より休業していた大谷資料館において、平成25年4月からの開館に伴い、メディアへの露出が増えたことにより、観光客が増加に転じており、現在も増加傾向にある。「石の里大谷」の魅力を市外県外に発信し、大谷への観光誘客促進を図る事業「フェスタin大谷」においても、上記大谷の現状を色濃く反映し、平成26年度に過去最高の来場者数を記録した。</p> <p>地域の課題・解決策: 現状での増加の背景は大谷資料館などを一部の施設を目的とした観光客が多いため、主にスポットで完結してしまう点での観光となってしまうため、滞在時間が短く、回遊性も低いため、経済効果薄い状況にある。今後は、観光客が様々な施設を回遊し、滞在時間の延長、回遊性の向上により高い経済効果を生むような、面での観光へのシフトを促すイベント実施を検討している。</p>
事業目的	大谷地域の活性化を促すとともに、「石の里・大谷」の魅力を県内外に向けて広くPRし、誘客を図ることで、「大谷」のみならず城山地区全域の観光振興を図るもの。
事業概要	<p>・当該年度の実施内容</p> <p>1. 実施日時 平成29年10月21日(土) 午後5時～午後9時</p> <p>2. 会場 大谷資料館、大谷景観公園</p> <p>3. 内容</p> <p>○ 宇都宮の主要な観光地である「石の里・大谷」において、日中來訪している観光客の滞在時間の延長や、「石の里・大谷」の新たな魅力発信のため、夜間のライトアップや石あかり、プロジェクションマッピングなどによって、照らし出される大谷石の迫力や幻想的な雰囲気等の魅力を発信することにより、日中だけでなく夜間においても楽しめる「石の里・大谷」をPRするもの</p> <p>(1) イベント内容 ・大谷石あかりの展示 ・大谷石へのプロジェクションマッピング ・大谷景観のライトアップ</p> <p>(2) 出展ブース ・飲食ブースの出展 ・物販ブースの出展</p> <p>・集客方法 チラシ、ポスターを始め、今回新たにFACEBOOK広告を活用したSNSによる情報発信し集客を図っていく。</p> <p>・翌年度以降の取組等 来場者の反応などをアンケート等により調査をしながら、調査結果を基に効果的な観光PRに向けた開催形態を検討し、実施する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>基本目標:人口の定着と東京圏からの流入人口の増加を図る</p> <p>基本施策・具体的な事業:本市の魅力を広く市外、県外に発信することで、来訪者の増加を図るとともに、本市での定住を促進する。</p> <p>KPI:本市年間観光入込客数 H22:1,353万人⇒H29:1,500万人(H28:1,483万人、H27:1,470万人)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	平成29年度	平成30年度	平成31年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①フェスタin大谷2017 の開催	①フェスタin大谷2018 の開催	①フェスタin大谷2019 の開催	/	①フェスタin大谷2020 の開催
事業費	3,747,798	4,000,000	4,000,000	11,747,798	4,000,000
市町支出金 (ソフト事業分)	3,000,000	3,000,000	3,000,000	9,000,000	3,000,000
うち県交付金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	747,798	1,000,000	1,000,000	2,747,798	1,000,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	観光交流課 観光企画グループ
担当者名	小林 輝久
電話	028-632-2437
連絡先 FAX	028-632-5420
E-mail	kanko@city.utsunomiya.tochigi.jp